

(社)日本原子力学会 標準委員会 原子燃料サイクル専門部会
第 44 回 LLW 処分安全評価分科会 議事録

1. 日時 2022 年 10 月 31 日(月) 10 時 00 分～11 時 45 分

2. 会議形態 Web 会議 (Webex)

3. 出席者 (順不同, 敬称略)

(出席委員) 佐々木 (主査), 山本 (副主査), 竹内 (幹事), 大浦, 小澤, 坂井, 島田,
菅谷, 杉山, 鈴木 (健), 鈴木 (龍), 中居, 中瀬, 宮本, 山岡 (15 名)

(代理出席委員) (0 名)

(出席常時参加者) 関口, 中林, 大石 (3 名)

(欠席委員) 石田, 村松 (2 名)

(欠席常時参加者) (0 名)

(傍聴者) (0 名)

4. 配付資料

F16SC44-1 議事次第

F16SC44-2 第 43 回 LLW 処分安全評価分科会議事録 (案)

F16SC44-3 人事について

F16SC44-4 専門部会決議投票コメント及び対応案

F16SC44-5 低レベル放射性廃棄物処分施設の安全評価の実施方法—中深度処分編—:20XX (案)

<参考資料>

参考資料 1 L1 処分安全評価標準の対応概略工程

参考資料 2 SC89-3-09-1~4_低レベル放射性廃棄物処分施設の安全評価の実施方法—中深度処分編—:20XX_標準原案 (標準委員会説明資料)

参考資料 3 FTC92-5-2_原子燃料サイクル専門部会【報告・審議】(本報告)“低レベル放射性廃棄物処分施設の安全評価の実施方法—中深度処分編—:20XX”標準原案に関する専門部会決議投票の結果及び意見への対応について

5. 議事

a) 出席者/資料確認

分科会事務局から, 委員総数 17 名中, 15 名の出席があり, 分科会の成立要件を満たしている旨報告があり, 引き続き配布資料の確認が行われた。

b) 前回 (第 43 回) 議事録確認

分科会事務局から, 前回議事録である F16SC44-2 については既にメールで各委員に配布しているため, 本日中にコメントがなければ学会に送付するとの説明があった。

c) 人事について

分科会事務局から、F16SC44-3に基づき、1名の常時参加者退任の報告の後に1名の委員選任者が紹介され、分科会審議が行われ分科会にて選任された。

人事についての詳細は以下のとおり。

1) 委員の退任【報告事項】

なし

2) 委員の選任【決議事項】

関口 高志（戸田建設株式会社）

3) 常時参加者の登録解除【報告事項】

関口 高志（日本原燃株式会社） 2022. 07. 31

4) 常時参加者の登録【主査確認事項】

なし

d) LLW 処分安全評価分科会関連スケジュール

分科会事務局より、参考資料1を用いてLLW処分安全評価分科会関連スケジュールの説明が行われた。前回分科会（7/20）後、第91回専門部会（8/3）で本報告が行われ、決議投票は第89回標準委員会（9/14）でコメント回答承認後に実施となった。その後、9/16～10/15間で専門部会決議投票が行われ、委員26名中23票の投票（全て賛成）で可決され、5名の委員よりコメントを頂いた。NRA技術ノートが8月末に公開され、確認の結果影響は軽微で標準案の改定は不要で附属書・解説の一部に引用を付記し、上記の専門部会決議投票用資料に反映済との説明を行った。

特にコメント、質疑応答はなかった。

e) 専門部会コメント対応

中居委員から、専門部会決議投票でのコメントと対応をまとめたF16SC44-4及び、コメント対応を行った標準案のF16SC44-5を用いてコメント対応の説明が行われた。また、コメントを頂いた各専門部会委員に対して事前にF16SC44-4を送付した結果、メールで頂いたコメントを竹内幹事より紹介した。

主な質疑を以下に示す。No.はF16SC44-4中のコメントNo.に対応する。

- ・No.3:「廃棄物埋設地・人工バリア」は「廃棄物埋設地（人工バリア含む）」の方が適切では。専門部会委員からも同様のコメントを頂いた。

→拝承。

- ・No.14:「最も可能性の高い被ばく経路」は本標準で説明しているのか。

→被ばく経路はサイトにより異なるので、説明はしていない。

→実際の申請でも被ばく経路については議論の対象となっている。パラメータと被ばく経路の両方で「可能性の高い」、「保守的」が出てくるので混乱しやすいため、可能なら説明が欲しい。

→被ばく経路についての記載は許可基準規則のままである。

→被ばく経路の選定については附属書Dにも記載がない。

→被ばく経路はサイト及び周辺環境（例えば井戸水の利用状況）で大きく異なるため、各サイトで想定される被ばく経路から選定する。

・No.16：埋設後管理標準では「埋設坑道充填材」でなく「埋設坑道内充填材」としている。

→拝承。「埋設坑道内充填材」で統一する。

・No.19：図 B.1 の上側の赤線について説明が欲しい（「通常の範囲内で最も被ばく線量が小さくなる状態」等）との追加意見があった。

→附属書 B 本文ではこれらは審査ガイドを基に設定したと書かれているが、審査ガイドには上側の赤線を示す言葉は定義されていないか。

→特に設定されていない。

→「通常の状態」を「通常の状態の幅」に書き換えることも考えたが、その場合「厳しい状態」との対比が成立しなくなるか。

→本来赤線（考えられる範囲の上限/下限）は 1 本の線では示せずそれ自体に幅があると考えられるので、あえて説明をすることは不要ではないか。

→2 本の赤線の間にはハッチングを行うことも考えられる。

→上側の赤線が何か分かりづらいため、注釈等で何か説明が必要と考えられる。

→「通常の状態」を「通常の状態の幅の範囲」に書き換えるか。

→審査ガイドでは「変動範囲」が用いられているため、「通常の状態の変動範囲」が良いのでは。

→表 B.3 では下側の赤線（通常の状態で保守的なパラメータを設定した状態）、青線（科学的に最も可能性が高い状態）及び緑線（厳しい状態）の説明はあるが上側の赤線にはない。また、下側の赤線の定義の一部（これより性能が劣化した状態にならない）は上記の図 B.1 と考え方が少し異なる。

→上側の赤線（非保守側の設定）は評価に使用しないため、通常は定義されていない上に値も設定していない。そのためここに言葉を記載すると定義について揉める可能性がある。

→先ほど出た案の 2 本の赤線間に色を塗るのが一番良いのでは。

→2 本の赤線間に薄い色塗り（ハッチング）をおこない。「通常の状態」を「通常の状態の変動範囲」に修正する。

→その場合上の赤線は不要では。

→拝承。上記に対応した図の変更と F16SC44-4 の修正を行う。図の範囲を示す上下矢印も削除する。

→上記で問題ないと考えられる。

f) 専門部会で上記資料の報告を行う件についての決議

上記のコメントを反映した資料を専門部会で報告することについて WEB 上での決議の結果、出席委員 16 名の全員賛成で決議された。

g) 専門部会対応

事務局から専門部会議事及び参考資料-3 に関する説明が行われた。上記で決議された資料を用

いて専門部会で説明を行う予定である。

h) 次回分科会等

次回分科会は，1月20日（金）13：30～15：30を候補とする。

以 上